

(個別的労使紛争のあっせんに関する要領 第1号様式(第7条第1項関係)個別あっせん申請書)

【記載例】

個別あっせん申請書

〇〇年〇〇月〇〇日

北海道労働委員会会長 様

申請者の氏名 石 狩 〇 〇

(法人にあつては名称及び代表者の職氏名)

次のとおり、個別的労使紛争のあっせんを申請します。

1 関係当事者

(1)労働者 住 所 札幌市〇〇区〇〇条〇丁目〇〇番〇号
氏 名 石 狩 〇 〇 (〇〇歳)
雇用形態 正社員
採用年月日 〇〇年〇〇月〇〇日 (勤務年数〇〇年〇月)
連絡先 (電話番号) 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

(2)使用者 所在地 札幌市〇〇区〇〇条〇〇丁目〇番〇号
名 称 (株)北海〇〇〇
代表者職氏名 代表取締役社長 北 海 〇 〇
従業員数 〇〇〇人
連絡先 (電話番号) 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

2 事業の種類 〇〇〇〇業 (事務機器・事務用品の製造・販売など)

3 あっせん事項

(1) 解雇の撤回

(2)

(賃金・一時金・退職金の未払分の支給、配置換の撤回、賃金体系変更の撤回など、具体的に記入する。)

※ あっせんを求める事項を簡潔に記載してください。

4 関係当事者の主張

労働者	使用者
<p>会社側の解雇事由には納得できず、また退職を強要されたのは不当であり、解雇を撤回すべきである。</p>	<p>石狩は、会社が必要としている能力を有しておらず、また、会社の方針には従わないため、これ以上社員として雇用できない。</p>

※把握している範囲で記入してください。

5 申請に至るまでの交渉等の経緯

年・月・日	交渉等の経緯
<p>○年○月○日 ○年○月○日</p>	<p>○○社員として採用された。</p> <p>朝、総務部長から応接室に呼ばれ、「あなたの仕事ぶりではうちの会社では使いものにならないので辞めて欲しい。」と言われた。</p> <p>自分としては納得できないので、「自分としては、仕事はキチンと処理しており、解雇されるミスも犯していない。」と述べたが、「会社の判断だから、明日まで考えておいてくれ。」と言われた。</p> <p>自分としては納得していないので2～3日何も返事をしなかった。</p>
<p>○年○月○日</p>	<p>朝、突然に総務部長に呼ばれ、「会社の方針に従わないので、×月×日で解雇する。」と言われたので、「そのような解雇は認められない。」と主張したが、「会社の方針に従わないからやむを得ない判断であり撤回できない。」と答えた。</p>
<p>○年○月○日</p>	<p>再度、総務部長に抗議をしたが聞きいれられず、「そのようなことを言うのであれば明日から会社に出てこなくてよい。」と言われた。</p>
<p>○年○月○日</p>	<p>労働委員会に解雇の撤回を求めてあっせん申請を行った。</p>

※紛争の経緯及び争点ができるよう、時系列で簡潔に記載してください。

6 労働組合の有無 有 無

7 労働組合の加入の有無 有 無

8 その他 (紛争解決に向けて、必要な資料を添付してください。)